



FRIENDS

The Friendship Force of Saitama 会報 第 115 号 (2024/11)
<http://www.ffsaitama.com/>

2024 Minnesota-Twin Cities と Greater Des Moines, Iowa 渡航で学んだこと

AC 三好 紀子

盛りだくさんの楽しく学びのある program を、Minnesota 16 名、Des Moines 15 名に提供して下さった両クラブに感謝のことばとともに Program 概要を掲げます。

	Minnesota-Twin Cities	Des Moines Iowa
Day 1	Welcome Picnic (滝のある大公園)	Welcome Potluck (教会にて)
Day 2	Drive to Wisconsin / Camp Fire	Terrace Hill Tour (Iowa が誇る歴史建造物)
Day 3	Outdoor & Indoor Activities	Iowa Cubs Game 野球観戦 始球式で見事投球!
Day 4	Drive back and meet dinner hosts	World Food Prize Building Tour / Capitol tour
Day 5	Capitol Building Tour/Hmong Village	Meet Des Moines Mayor / Glass blowing
Day 6	MIA(Native American Art Tour)	Art Museum / 賞をもらった農場見学
Day 7	Flight to Des Moines	Art Center / Farewell lunch / 空港へ

journey を共にした会員とホストの言動から貴重だと思ったことを述べます。

* AC を支える AAC(会計 道江、チケット手配・準備・記録 高堂・濱田・丸山)の協力体制があって滞りなく、どんなことにも対処できました。ambassadors は協力しあうチームであり、清潔な国民と評価され、見学場所で質問が相次ぐ curious guests であり、easy to please と双方から褒められました。その一端は Minnesota から送られてきた音楽と音声付きの video で次のように表現されていました。

“Sadly, we will send our Saitama friends to the cornfields of IOWA and the lucky people of the Friendship Force of Des Moines. … We hope you will fondly remember your FF week in Minnesota and the “other” Minnesota!”

* the other Minnesota はお隣の Wisconsin 州, 2泊3日の信じられない滞在を経験できたのは、2023年春 Greater Cincinnati のメンバーとして埼玉クラブを訪れた3組の夫妻のおかげです。President が渡航のお誘いをしてくれ、森と湖での生活を提供してくれ、”I was happy to have you come to the cabin.” と言っていました。

☆ 両クラブの連携は journey が始まる前に立ち上がっており、ギターで Camp Fire を盛り上げてくれた doctor のお陰でコロナ感染者がでた時的確な判断をしてもらい、スムーズに話が進みました。躊躇なく受け入れてくれた Des Moines の懐の深さに感動しました。ホームキットで検査をし、移動後2日で陰性証明が出た時は、みんなで喜びあいました。

旅を終えて 結局は「人」、この Journey に関わったすべての人の繋がりが生み出した心に残る旅でした。
 a world of friends is a world peace を実感するとともに、peace and friendship からほど遠い現在の世界の中で、FF の理念を拡げる活動が、世界のどこでも求められていると痛切に思っています。

初めてのFF 渡航を終えて

井上 和子



アメリカ大陸の上空を飛ぶ飛行機の窓から見えたのは、碁盤の目のように区切られた色とりどりの大地でした。日本より

はるかに大きな国土を、新たな入植者や Native American に土地を与えるために人の手で作られたものだとしたらと考えると、アメリカという国力の大きさに驚嘆したことから私の初めてのFF 渡航は始まりました。

今回の渡航は、これまで参加していた旅行ツアーなどでは行くことのできない都市で、私にとっては、Minneapolis という地名は知っていたものの Des Moines という都市名は初めて聞いたくらいでした。(後から知ったのですが、Des Moines という地名は

アメリカ国内には他にもいくつかあるようですが…)

ホームステイ先のホストの家は、大きな木が植えられ、野生の鹿や七面鳥を見ることが出来る広い裏庭と大きなガレージがあり、まさにアメリカのホームドラマに出てくるような家で、そんな家に滞在できることに、只々感激していました。ウエルカムパーティーやランチの際には、ポトラックと呼ばれるホストが料理を持ち寄って食事を頂く機会がたくさんあり、いろいろな種類の家庭料理を楽しむこともできました。

Minnesota では、Iowa まで遠出をし、レイクサイドのキャビンに滞在できた事、Des Moines では野球観戦ができた事も忘れられない思い出です。あっという間の二週間を終え、観光や食事等はもちろん、滞在中ホストが私たちを快く迎えてくれていることが伝わり、感謝の気持ちで一杯です。

本当に良い経験になりました。

ミネソタでの思い出

深澤 美紀子

一番思い出に残っているのは、Wisconsin 湖水地方への3日間の小旅行です。

二日目は好きなアクティビティを選ぶとのことでしたが、ウォーキング希望者は私と道江幸江さんだけで、案内してくれる人もなく、ましてや詳しい地図もなく、9kmの掲示板もないただの車道(といってもほとんど交通のない気持ちの良い道)を二人だけで大丈夫なのか不安でした。その日の朝トムが車でぐりと案内してくれて、なんとか二人だけで行けそうな気がしてきました。その日はお天気も良く素晴らしく気持ちのいい一日で、私達は沢山おしゃべりをしながら心からハイキングを楽しみました。意外だったのは、幾つか美しい湖のそばを通るのですが、湖畔は私有地で景色を見るために立ち入ることができません。

湖水を回るトレイルも全く整備されておらず、日本のような公共の配慮が一切ないことでした。それでも道の端から湖面を見たり、農場や牧場、少しだけ色づき始めた美しい木々を見ながら快調に歩いていました。やっぱりちょっと心配だったらしく、アルが自転車で探しに来てくれたのですが、奥まったところでランチをしていた私達を見つけられずに、もう一度今度はトムと二人で車で来てくれたのには感謝しかありませんでした。のんきな私達は最後まで歩き通して大満足な一日でした。



はじめてのアメリカ はじめてのホームステイ

岩澤 由美子



海外旅行はするけれどなぜかアメリカには縁がなく、今回FFのお陰ではじめてのアメリカ、はじめてのホームステイを

体験できました。そしてホストをはじめFFの皆さんの心づかいを実感した毎日でした。

少し悩んだおみやげは、結局、自分らしくと思い手作りの物を、特に陶器類を中心にあれこれ持参しました。うれしいことにミネソタでは陶芸村に立ち寄ってもらったり、デモインでは陶芸を趣味としているメンバーと知りあえたりと、皆さんの気配りで楽しい時間を過ごすことができました。

思い出の味の一つには、ミネソタのホストが最初の夜に作ってくれたEgg Noodle Chicken Soup。これは体にやさしいスープで、長飛行で疲れているでしょうからとすすめてくれました。本当にやさしい味でした。

広い大地、広くまっすぐな道、芝生と裏庭のある家々等々、わたしのイメージしていたアメリカがありました。でも人々の心のあたたかさは想像以上でした。人をおもいやる気持ちに国境はないですものね～。そして一緒に渡航した皆さんのやさしさにも感謝しています。ありがとうございます。



ミネソタ&デモインとの交流

小川 幸子

今回、旅行本にも紹介されていないアメリカを見たくて参加しました。



前もってミネソタは農業、デモインは教育との少ない情報のもと、それぞれ一週間の滞在でしたが改めてアメリカは広い、何でもデッカイ、と実感しました。

農場にて
両州共トウモロコシ畑が北海道の何倍、何十倍もの広さで栽培されていて、ミシシッピの恩恵を受けて水は豊富、木々も大

きく、空気もキレイで町も清潔でした。一方、重労働者は外国人が殆どなのが気になりました。ミネソタでは未だ人種差別があるそうです。デモインでは教育レベルが少し下がったと言う話を聞きました。その要因は聞けませんでした。

同じアメリカ人でもプライドの高い人々が多く、文明と自然が上手く溶け合っていました。FFメンバーは勿論の事、一般の人々もとてもフレンドリーで気持ちの良い訪問となりました。



新しい会員さん



この度の交換で最も印象に残りましたことは、流石 FF と
思う受け入れの方々のご持
です。数年の間に忘れかけた
FF の交流の思いを思い出さ
せていただきました。

Minnesota での合同キャン
プ生活は、自然の雄大さや人
との交わり、日常の生活で忘れて
いる時間の過ごし方、経済ば
かりでなく時間に余裕を持つこ
とがこんなにも素晴らしいと
気付かせてくれた交換でした。
そこには受け入れの方々の陰
の力を忘れてはいけません。

Des Moines では、受け入れ
の方々の手作りのご馳走、ウ
ェルカムや見学の時のランチ
を用意してくだ

さることは頭が下がります。会
員の皆様が協力して楽しませ
てくださる気持ちが忘れられ
ません。これです。FF の精神
、自分たちが楽しんで協力し
てこそ、ゲストも快く過ごして
いただける。今更ながら学ん
だようです。

これからは、私達も年齢がか
さみ、できることに無理をし
ないで、自分たちも楽しんで
受け入れをしたいものです。
ひとつずつ経験を積んでい
くと私自身の人生がどんどん
明るく成長するようです。

本当に素敵な経験をさせて
いただきました。



アメリカ ミネソタとアイオワの思い出

浜田 聖子



ディナーホストと

久しぶりの渡航に、ちょっと
緊張しながらの旅立ち。ミ
ネアポリスの空港で迎えに
来てくれたローズとジョンに
会ったときにいよいよ交流
が始まったと興奮しました。
家は郊外の広い住宅で、広
い庭と近くの池などもあり
、ここがリゾートのような雰
囲気でした。次の日から今
回の旅

で初めてのキャンプ、これ
が本当に素晴らしかった、
湖でのアクティビティ。カ
ヌーや、ボート水泳など、
食べ物もクラブ員たちのお
手製、夜のキャンプファイ
ヤーは昔に帰ったようで
とても楽しく、初めて夜
空の銀河と、人工衛星の
飛ぶのを見ました。

ホストの二人は再婚同士
で、とても仲が良くお互
いの

子供たちや、彼らの生きて
きた道のりなど、話をした
のが心に残りました。

次のデモインで、到着す
るとすぐ、ウェルカムパ
ーティ歌もダンスもして一
気に盛り上がりました。デ
モインのホストはイザベル
。歩行器を使っていたので
大丈夫かなと心配したが、
車の運転もできるし、広
い庭や家の管理も素晴ら
しく、小柄な体とは思えな
いほどバイタリティーにあ
ふれていました。ここでは
、野球観戦や、市長訪問
、広大な農場見学など、
リアルアメリカがよくわ
かるスケジュールでした。

イザベルやデイホストの
レイニーたちとのおしゃ
べり、思い出に残るのは、
そんなひと時です。これが
フレンドシップの旅行の醍
醐味だと思います。



今回の渡航は、2か所のクラブ(Minnesota-Twin Citiesと Greater Des Moines)を訪問しました。

Minnesota-Twin Cities

Lake and Forest Activities, Hmong Museum, State Capitol, Dinner Cruise on St. Croix River, Minneapolis Art Institute, Mill City Museum などを楽しみました。特に、Tom さんの Cabin でのカヌーやキャンプファイヤーは、今までにない体験で非常に楽しかったです。

Greater Des Moines(IOWA)

Farmers Market, Terrace Hill(Iowa Governor's Mansion), Iowa Cubs Baseball Game, World Food Prize Hall, Des Moines City Hall, Brunnier Art Museum, Griffieon Farm, Butterfly House at Reiman Gardens などを楽しみました。Des Moines の郊外は、一面 corn field で、Field of Dreams の映画のようにこれぞ IOWA と感じました。また、ランチ付きの Iowa Cubs Baseball Game は、Iowa Cubs の Tシャツを着て楽しく観戦しました。

両クラブのホストには、非常に親切にいただき楽しい渡航でした。両ホストの住居及び近くで、リスが見られたことが興味深かったです。また、ホストの近くの大学構内で白いリスを見たのは、初めてでした。

最後に、楽しかった渡航に対し、Minnesota-Twin Cities, Greater Des Moines, 埼玉クラブの皆様に感謝申し上げます。



Campfire



Canoe



Iowa Cubs Baseball Game



Squirrel

ハロウィン、パンプキン飾りつけのコンテスト

稲垣洋子



洋子作品

写真提供 丸山さん

“優勝は、YOKO INAGAKI” “うわ～、やりましたあ～” 司会者のアナウンスに、私は小躍りしました。

デモインのフェアウェルパーティーで、飾りつけたパンプキンを持ち寄って競うイベントがありました。我が家でもナンシーが、小川さんと私に一個ずつパンプキンを手渡ししながら、クラフトの道具や飾り物を示して、‘何でも自由に使ってパンプキンを飾り付けてちょうだい’と言ってくれました。私は日本式の生け花をおもいつきました。パンプキンに小さな穴をたくさんつけて、小枝や草花を彩りよく差し込みます。この花材

は全てナンシーの庭から自分でとってきたものです。さて、名前を呼ばれて、私はパンプキンの作品を胸の高さまで持ち上げ、ゆっくりと会場を半周してステージの中央の司会者の所まで歩きました。‘おめでとう！’ ‘よかったわね！’ あちこちから声をかけられて、私は最高に幸せな気持ちになりました。スーザン、スティーブ、会場の皆さま、ありがとうございました。毎年ハロウィンが近づく度に私は必ずこの瞬間を思い出すでしょう。



FF ならではの暮らしながらの旅は楽しいものでした。

Iowa では Gail と Jene のお宅にお世話になり、毎朝綺麗な

食卓にカラフルなフルーツ、ヨーグルト、パン、ビッグカップのコーヒー。食後はご近所への散歩。広い庭と大きな家にみとれてばかりです。森林の湖やバタフライ公園、通っている近所の大学のスポーツジム、町の新しい図書館(Jene は理事)などとても参考になりました。

またシエラ(娘さん)の築2年の家に夕食を招待してくれました。彼女はお料理が好きと言って、ビーフ、ポ

ークに下味を付けてBBQ, Iowa の特産のコーン、2種類のサラダ、リンゴケーキにアイスクリームのデザート手作りはとっても美味しかったです。

最後の夜は和子さんといなり寿司、天麩羅(インゲン、海老、ニンジン玉葱のかき揚げ)カレーライスをつくりました。その時にシエラが3種類のケーキを作ってきて

くださり、日本、アメリカ、フレンドシップ・フォースのトッピングが素晴らしくとても嬉しかったです。本当に感謝です。



初めての米国です

道江 邦利

実はミネソタ、アイオワ州もどの辺にあるのかさえ知らなかったのです。

いざ、行ってみると思っていた光景でしたが。広大な国土、自然、いたる所にもある公園や湖、どこまで続くのかコーンフィールドや大豆畑など。ホストに案内され、行く先々で納得しました。確かに大きい、広い、豊か。「百聞は一見に如かず。」でした。

着いた翌朝に Edさんと湖まで散歩に行くと、いたる所で挨拶する光景がありました。皆さん知り合いです。その日の夕食にソマリアの若い女性が招待されました。お母さんは難民で米国に。本人は米国生まれ、流暢に英語を

話します。地域で夜に出歩いている子供たちに声掛けしている警察秘書ボランティアをしていて、犯罪が減った話を聞き

ました。この活動で Edさんと友達だと。夕食はソマリア料理サンブーサ。美味しかったです。

ミネソタの最終日にはすぐ近くにあるジョージ フロイド メモリアルに案内されました。近くには警察官により殺害された黒人の数多くのプレート墓標が並んでいました。Edさん曰く、「ここは米国の Sad place」だと。

アイオワでは始球式が印象的でした。数十年間ボールを投げたことがない、公式球、マウンド、プロ野球観戦、初めて尽くし。緊張し、格好は悪かったが、後々唯一の思い出になりそうです。

近くのホストの娘さん宅に夕食に招待され、食後散歩をしたこの地域は住宅街が拡大中との事。新築中の家の地下室を見学出来た。トルネード被害から身を守るには必要不可欠な間取りである事を知りました。得ることの多い、あっという間の米国ステイでした。



話します。地域で夜に出歩いている子供たちに声掛けしている警察秘書ボランティアをしていて、犯罪が減った話を聞き

再会の喜び

外山 竹治

FF Journey の目的の一つは、友人との再会でもある。今回は、Minnesota 州 St. Paul 市の Katie さん、Ray さんご夫妻のお宅に滞在することができその



の目的を果たすことができた。滞在中、妻と私を娘さんの自宅までご案内いただいた。途中、近隣のお宅をながめることができとても面白かった。前庭に星条旗を立てているお宅や、大統領候補者の支持を訴える看板を立てているお宅を見かけた。娘さんの家では、裏庭に2人の孫のために、tree house を作ったので是非見て欲しいとのお話が Ray さんからあった。tree house は、太い木を囲むように地上2メートル程度のところにテラスが作

られており、木製であった。子供がはしごで登る設計である。どこの国でもお祖父さんは孫が可愛いのが良く分かった。

最終日、午後 Des Moines への飛行便まで時間があつたので、Katie さんは、近くの公園までドライブをして、屋外で朝食をとることを準備してくれた。手作りの心のこもったサンドイッチでとても美味しかったのを覚えている。わずかな時間でも、ゲストに楽しんでもらうという気づかいが伝わってきた。出発に際し、Katie さんは、私達が空港のセキュリティゲートに入るまで手を振って見送ってくれた。別れがたいという思いが伝わってきた。



今回のアメリカ渡航では、相手クラブの方々となるべく話す機会を多く持つことを心掛けた。音楽や家族のこと、趣味に関連した話などをするとアメリカ人も日本人も同じような思いを抱いていることが分かり、気持ちが通じ合う楽しさも経験した。



心に残ったのは、Tom さんの lake home の庭でキャンプファイヤーの際、ギターを演奏をして下さった FF Minnesota の Ed さんとの音楽の話である。奥様にご病気になられ看病をなさっている中で、Ed さんが楽器を演奏すると微かに口を動かしておられたとのことである。お二人の趣味の音楽が、病気になられ

た奥様とご自身を結び付けていたことや奥様は歌がお上手だったことも思い出されていた。キャンプの最終日に愛用の楽譜本を私に下さり、心に残る大切な宝物となった。

また、Iowa のディナーホストの Anita さんは、元音楽教師でありピアノでアメリカの歌、それも私達も知っている歌を弾いてくださった。伴奏に合わせて皆で歌う楽しい夕べになった。その時に演奏されていた曲を弾いてみたくなり、帰国してから Amazon で注文するとイギリスの販売店から先日届いた。この楽譜本も私の宝物になった。アメリカでの出会いを思いながらこれらの楽譜を練習していきたいと思う。

た奥様とご自身を結び付けていたことや奥様は歌がお上手だったことも思い出されていた。キャンプの最終日に愛用の楽譜本を私に下さり、心に残る大切な宝物となった。



懐かしい友人との再会

西村 介延



今回の渡航で大いに楽しみにしていたのが、昨年我が家にホームステイした Thomas/Jannet に再会できる事と

2010年に IOWA へ渡航したときに滞在した Peggy/Robert に会えることであった。

Thomas/Jannet からは、渡航以前から、彼らの Cabin へのお誘いがあったが日程的に無理とお断りしていたが、幸い滞在の期間内にグループ全体で Cabin へ滞在できることとなった。ミネソタ州は多くの湖があることでも人気があり、われわれも彼らの湖畔の Cabin に滞在し、Canoe, Boat, Hiking, Game, Camp Fire など楽しい時間を過ごした。

また今回は、Minneapolis に続いて、Des Moines/IOWA を訪問し、アイオワでは Marla さん宅に滞在した。前述の通り、さいたまクラブは以前 Dubuque/IOWA を訪問しており、その時滞在したのが Peggy/Robert 宅であり、それ以降も我が家で迎えたり、メールのやり取りなどで、個人的な付き合いは続いていた。今回は何時間ものドライブにもかかわらず、Marla さん宅まで会いに来てくれ、何年かぶりの再会は楽しいものだった。また、いつ会えるかわからないが、See you somewhere in the near future!!..... と再会の挨拶となった。



アメリカ旅

西村 純枝

アメリカ旅から無事帰国して今日で丁度一か月がた



った。もっと長～い時間が過ぎた気がする。時は人を待たずか。留まって欲しいと願う気持ちとは裏腹にどんどん容赦なく時は過ぎる。そんな思いが湧き上がってくるくらい仲間と尋ねたアメリカは楽しい旅となった。そして忘れたと思った場所も時間も

人々の顔さえも、埼玉クラブの Mr.photographer 丸山氏の一瞬も逃さない数々の写真のお陰で、きっといつでもあの場所に帰れるとの大きな安堵がある。セントポールの Thomasa(Tom)& Jannet を我が

家でホストした時とは、また違った印象を持つことができたこともとても新鮮だった。アンバサダーとして来日した Tom は弁護士の佇まいでとても穏やかでゆったり。Jannet は着付けの華やかさにご満悦だったようだが、アウェイということもあったのか少し不安げでいつも Tom の後ろに控えめ。アメリカでの Tom は私達を楽しませようと腕まくりで働く働く働く。Jannet も何たる存在感と張り切り、人とは面白い！渡航して受入れてををして初めて人となりを味わえるのだな～と感無量。



渡航してからのまさかの、コロナ感染

宮城 利枝子



コロナ直前のニューカレドニア渡航から 4 年、今回のアメリカ、ミネソタ ツインズシティそしてデモインの渡航、直前まで不安と、期待でドキドキ、わくわくでした。アメリカは個人で数回渡航しましたが、今回初めてのアメリカでのホームステイ。

羽田から 13 時間でミネアポリスに到着。数名のホストとは再会のためか、歓迎して頂きました。私のホスト、ローズとケンは結婚 20 年のとても穏やかで、親日家のご夫婦です。私がステイしたセントポールは、ミネソタ州で最大の都市にもかかわらず、空港からミシシッピ川を渡ると、間もなくホストの家。家のすぐ前にはコモパークという広大な公園があり都会なのに緑あふれる環境にあります。

セントポールに到着後の 2 日目、西村さんご夫婦のホストの、トムとジャネット所有のウィスコンシン州のキャビンにて、アメリカン キャンプ生活の体験。各々、ボート、カヌーサイクリング、ウォーキングそして夜はホストのギター演奏でのキャンプファイヤーなど、とても楽しい時間を過ごせました。キャビンは 10 人以上が宿泊出来る立派な宿舎でした。渡航前のキャビンでの寒さ対策は必要ありませんでした。どれほど、準備が大変だった事を考えると、本当に感謝感謝です。有難うございました。

しかし、個人的にはあまり気分がすぐれず、横になっていることが多く皆さんにご心配をおかけしました。係りの方、大変お世話になりました。



ニュージーランド英語研修

原田 桂子

7月24日—28日 Wairarapa クラブ

28日—8月2日 Manawatu・Whanganui クラブ



今回が初めての渡航。「英語研修」という文句に惹かれて参加しました。特に「研修」はありませんでしたが、現地の方の容赦な

いスピードの英語にたじたじの毎日でした。

ニュージーランドは初めてでしたが、噂通りに死ぬほどたくさんの羊を見ました。普通の観光旅行では訪れることのできない現地の中学校や市庁舎、ホストの皆さんと一緒に参加したワークショップ、日本ではなかな

かお目にかかれない広さのお家でのパーティーなどで、あっという間の 11 日間でした。それにしても哀しいのは日本円の安さと物価高です。ホームセンターにあるカフェでサンドイッチとソフトドリンクで 2,000 円近くでした。食べ物に関してはたくさんお肉を食べられるかと期待していましたが、ガッツリお肉の食事は殆どなく、帰宅してから「肉!!!」とあいなりました。

今回の渡航はメンバーに恵まれ、大変に楽しい時間を共有できました。同じメンバーで来年の春には札幌のメンバーを訪問する予定です。最後になりましたが、ホスト、メンバーの皆様にご挨拶です。

ドイツ Varel クラブ 愛知クラブと合同ツアー

ミステリーツアー

長谷川 朝子



一人で他クラブのツアーに参加させていただいた。集合場所・時間、参加者・人数、日程の詳細など疑問点の多い、何もかもがはっきりしない不安な旅立ちであった。どんな小さな情報でも共有されなければならぬとしみじみ感じた。

「ドイツ・ファーレル・ミステリーツアー」と位置付け、どんな事も楽しんでいこうと自分に言い聞かせた。

一週間、ハイドさんのお宅にお世話になった。渡航前、私は81歳だけれど、常に貴方と行動できますというメールを頂いた。ウインドミル見学の際、長い螺旋階段を登るのは大変だからここで待っていてという私の言葉には耳を傾けず、最後まで登り切った。健脚でどんな所にも一緒に行動してくれた。ダイク(水害から守る土手)、オールデングルクの街、北海の海も一緒に楽しんだ。最後の日は小学校も訪問できた。遅れて着いた私たちだが、折り紙の「だまし舟」で遊んだり、漢

字や風呂敷の使い方を伝えたり、素直で純粋な子供たちとの時間は本当に楽しく心癒された。ある日、彼女は困り事があり、息子さんと呼んだ。やって来た息子さんは、心配しなくていいよ、全て忘れていいよと優しく彼女を諭した。二人の会話を聞いていて、何と優しい素敵なお親子だろうと胸が熱くなった。母はあなたを迎えるのを心待ちにしていましたという言葉も心に染みだ。

彼女は体調が思わしくなかった。それでも心から私を楽しませようとしてくれた。高齢化が叫ばれる中、これからどのクラブでも様々なことが起こり得るだろう。

クラブ員同士の情報の確認、助け合い、声の掛け合いが必要だと痛感した。

今回は、その後一週間の北ドイツの街巡りを含め、ワクワクドキドキの、ちよっぴり切ない、けれど素敵なミステリーツアーとなった。



会員の集い9月8日 こしがや薪能【越谷能楽堂】

越谷市在住の宇田さんのお招きでこしがや薪能を鑑賞する機会に恵まれました。折角の会員の集いでしたが、



FF 埼玉の皆様がデモインとミネソタに渡航中のため7名の参加であったのが残念でなりません。最初に、観世流能楽師さんによる能楽講座が。能楽は室町時代に観阿弥、世阿弥によって大成され、その後江戸幕府の式楽として武家社会で栄えたそうです。能楽は一種の歌舞劇であって、台詞は謡で、囃子(笛、小鼓、大鼓)で伴奏を、動作は舞の形をとっているのだとか続いて、厳粛な雰囲気の中で火入れの儀が行われ、本番の舞囃

子、“舍利”、狂言“昆布売り”、仕舞とプログラムが進み最後の能では、“小督”を鑑賞しました。当日、近隣で雷雨が予想され、館内棧敷席からの鑑賞になりました。次回は屋外の薪の火近くで鑑賞、是非幽玄の世界へ引き込まれるような体験してみたいものです。宇田さん、良い機会を作って下さりありがとうございました。またの機会を楽しみに致しております。(広報 川田記)



埼玉クラブ主催

FF 関東ブロック会議開催

6月30日(日)13:00~16:30 シーノ大宮 会議室にて

関東ブロックは東京クラブ・西東京クラブ・Mt.Fuji 山梨クラブ・埼玉クラブで構成されています。東京クラブから11名、西東京クラブから6名、埼玉クラブからは17名が会議に参加されました。残念ながらMt.Fuji 山梨クラブは集中豪雨の被害で対応に追われているとのことで、参加されませんでした。

皆さまにはメールにて会議録を報告しておりますが、全体会・グループ懇談会共に活発な情報交換が行われ有意義なブロック会議となりました。

また、会議に先立ち、パレスホテルのビュッフェスタイルのレストランで各クラブの方々と昼食を楽しみました。



写真提供 丸山さん

今後の予定

12月1日	午前:理事会 午後 13:30 第1回ブラジル受入れ準備委員会
1月5日	会計監査
1月12日	午前:理事会 午後 13:00 第2回ブラジル受入れ準備委員会
2月2日	FF埼玉クラブ 午前:総会 午後:懇親会 10:00~ 北浦和カルタスホール
2月24日	午前:第3回ブラジル受入れ準備委員会 午後:理事会

発行 ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉
 広報部 浜 堀切 石橋 浜島 原田史 田中 川田 稲垣朋彦 原田桂子
 ホームページ担当 堀切
 Male : friendship.f.saitama@gmail.com
 発行日 11月25日